

しろうや！ 広島城

Let's know Hiroshima Castle.

No.6

企画展のご案内

日本には多くのお城があります。天守閣のあるお城もあれば、石垣や堀だけのお城、戦国時代の山城や砦の跡、実に様々なお城を訪れることができます。

みなさんのなかには、お城めぐりが趣味とは言えないまでも、旅行に行くとき必ずお城を訪れるという人も多いのではないのでしょうか？ また、あらためて数えてみると、意外にも多くのお城を訪れていた、ということに気付く人もいるかもしれません。お城そのものに私たちを引き付ける魅力があることは言うまでもありませんが、私たちが知らず知らずのうちに、お城めぐりに夢中になっているのかもしれないね。

では、お城めぐりの楽しさとは一体何にあるのでしょうか。お城のシンボルである天守閣を見たり写真を撮る、天守閣に登って景色を眺める、絵図や復元図で昔のお城の姿を想像する、お気に入りの歴史上の人物の足跡をたどるなど、思い起こせばきりがありません。そう、お城めぐりの楽しさは、人それぞれなのです。

あなたにとって、お城めぐりの楽しさとは何ですか？（篠原）



「諸国城郭図」水戸城：江戸時代（当館蔵）

日本お城めぐり展

あなたはいくつお城を訪れましたか？

展示ガイド

企画展開催中の日曜日

14：00～（15分程度）

学芸員による企画展の展示
解説を行います

今回の企画展では、日本各地のお城の写真、復元図、縄張図などをパネルで展示し、お城の魅力やお城めぐりの楽しみについて紹介します。

会期：平成17年12月3日（土）～12月25日（日）

会場：広島城天守閣第4層

堀に関する”へえー”な話

今回のテーマは堀。現在の広島城には、二の丸に復元されたもの（写真1）の他には堀がありません。これでは、いざいざという時の防御力は弱くなってしまいます。江戸時代の広島城では、堀に面して築かれた石垣の上には、櫓や門といった建物以外にその間をつなぎ、城内を囲む堀が築かれていたのです。



写真1 二の丸の復元堀

堀の築かれた土台

現在の広島城は本丸、二の丸を囲む内堀の範囲だけを見ることができますが、江戸時代は中堀、外堀に囲まれ、西は太田川（本川）を天然の堀とする広い（市民球場約40個分）お城でした。では、その広い範囲を囲む堀はどんな様子だったのでしょう？ 「広島城下絵屏風」には、広島城の外と内とを仕切る堀が、部分的に描かれています。図1は現在の八丁堀付近を描いたものです。



図1 広島城下絵屏風 部分（当館蔵）

描かれている堀は、外堀にあたり、堀に面した櫓の間を結ぶように堀が築かれています。この堀の土台をよく見て下さい。堀の水際には石垣が築かれています、その上は土を盛り上げ、草が生えた土塁になっています。二の丸の堀と違い、土塁の上に築

かれた堀もあったことがわかります。もちろん、石垣の方が土塁よりもがんじょうですから、全て石垣にすればいいじゃないかと思われるかもしれませんが、しかし、広島城を仕切る堀は、（昔の測量図で測ったので、多少誤差があるのですが）約7km前後にもなります。石垣にすれば、費用もかさみます。「安芸国広島城所絵図」などを見ると、石垣上に築かれた堀は主に本丸、二の丸のもので、他の大部分の堀は土塁上に築かれています。

堀の構造

写真1と図1の堀には△や口形をした狭間と呼ばれる窓がつくれ、そこから鉄砲や弓矢を撃てるようになっています。「広島藩御覽書帖」という記録には、広島城の総狭間数は4,183（892が弓狭間、3,291が鉄砲狭間）と記されています。櫓などの建物に設けられたものもあるものの、そのほとんどは、堀に設けられたもので、堀はお城の防御のための重要な施設であることがわかります。また、堀の裏側はひかえ柱を地面に建て、堀を支える構造になっています。（写真2）

ここまでは基本的に同じ構造を持つ堀ですが、細

部を見ると異なる部分があります。まず写真1の堀の屋根には瓦が葺かれています、図1の堀では板屋根が描かれています。また、写真1の堀の壁は下側が黒い板に覆われています（これを下見板張といいます）



写真2 復元堀のひかえ柱

が、図1のものは全てが白壁です。この構造の違いは、先ほど述べた石垣と土塁とどちらの上に築かれたかという違いと一致し、石垣上の堀には瓦が葺かれた下見板張の壁、土塁上のものは板屋根で下まで白壁だったようです。

堀の天敵は？

福島正則が洪水で破損した城を修築したことを、きっかけに幕府に罰せられたという有名な事件があります。三角州に築かれた広島城の堀にとって最大の天敵は洪水でした。「済美録」という記録に記され

た塀の破損の記事を見てみましょう。

- 元和 6 年 (1620) 原因：大水
寛永 2 年 (1625) 原因：地震
承応 2 年 (1653) 原因：大風雨での洪水
破損状況：塀や土手、石垣など約 1987m
元禄 15 年 (1702) 原因：洪水大風雨
破損状況：塀 44 か所・塀 12 か所約 155m
(筆者注：塀の構造の違いで書き分けたものか?)
宝永 4 年 (1707) 原因：地震
破損状況：塀 10 か所・三ノ丸の土手、塀約 64m・
塀の瓦や白い壁土 20 か所
宝暦 7 年 (1757) 原因：大風雨と高潮
宝暦 8 年 (1758) 原因：火事
破損状況：土塁の塀 3 か所
文化元年 (1804) 原因：洪水
破損状況：塀約 790m
文化 12 年 (1815) 原因：火事
破損状況：塀約 76m
文政 11 年 (1828) 原因：洪水

この「済美録」以外にも洪水や火事などの記録がありますし、現在でも毎年のようにやってくる台風

のことを考えるとひんぱんに塀は壊れていたと考えられます。もちろん塀以外にも櫓や石垣が壊れる場合もありますし、修理費用がかさんでいたことでしょう。それを示すように、「済美録」の記述では、享保 11 年 (1726) に「天守閣・櫓・塀・石垣の修理や堀の土浚いなどは、大損のないよう心がけるように」という命令が藩から出ています。また、「事蹟緒鑑」という記録では、享保 4 年 (1719) に「塀のひかえ柱に良くないので、土塁の塀の内に野菜等を作らないように、ただし、担当役人と大工が検査して問題なければ作ってもよい」という命令を藩が出しており、塀を長持ちさせようとした様子がうかがえます。ただ、宝暦 5 年 (1755) 頃には、塀がかなり崩れていたと見え、「お城の外の郭の塀を取り除いて、植物を植えているといううわさ」が流れ、あわてて広島藩は幕府の老中酒井忠寄に「現在修理中なのですが、すぐには直らないのです」と言い訳しています。現代でも、学校をはじめ、公共施設の修理費が足りず、壁にひびが入ったままの施設を見ますが、それと同じような事例が江戸時代にもあったのですね。(田村)

おしえて！ 広島城博士 4

Q. 広島城の殿様はどこに住んでいたの？

広島城の天守閣、立派じゃろ。ここには殿様が住んでいて、いつも町をながめていた…って思うかの？ じゃが、くらすどころか、殿様は天守閣には一生のうちでもほとんど登ることがなかったらしい。広島城の場合、天守閣は、武具などを保管する倉庫のように使われていたというぞ。いくさのない江戸時代の天守閣は、権力のシンボルであって生活の場ではなかったのじゃな。

じゃあ、殿様はどこに住んでいたのかな？ 「しろうや！ 広島城 No.3 おしえて！ 広島城はかせ2」でも紹介しとるが、おぼえておるかのう？ 広島城の天守閣がある「本丸」というエリアには、約 12,000 平方メートルもの広～い「御殿」があって、殿様はそこでくらすとともに家臣たちも集まって政治を行っていたんじゃ。御殿は今に残ってないが、模型が天守閣の中に展示してあるから、どんな様子か見てみんさい。おもしろいぞ。

ところで、殿様が御殿で生活するのは広島での話。江戸時代の殿様たち、つまり大名には参勤交代というつとめがあってな、将軍のいる江戸と自分の領地の間を一年ごとに行き来しなければならなかったのじゃ。ということは、広島城を留守にして江戸に行ったとき、殿様はどこに住んでおったのじゃろう

さあ、何でも聞いて
ごじゃれ！
今回の質問はこれ！



か？ 実は江戸でつとめをはたす殿様たちは、幕府から江戸城の近くに土地を与えられて、そこに屋敷を建てて暮らしておったのじゃ。広島殿様・浅野家も、今は官庁街になっておる霞ヶ関(東京都千代田区)に屋敷を構えておった。現在は総務省のあるあたりじゃ。浅野家上屋敷の赤い門は、道をはさんで向かいにあった福岡・黒田家上屋敷の黒い門とともに「名所」としてよく知られておったらしく、歌川広重の浮世絵にも描かれておる。たいそう立派な屋敷じゃったようじゃ。(前野)

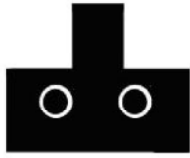


広島城の御殿模型(当館蔵)

企画展のご案内

第37回新春書道作品展

書道っておもしろい……



新キャラクター
くろくとくん

○しろと「あ、あなたは、だあれ？」

●くろと「ぼくはくろと。色々勉強したから、くろくなった、しろとじゃないよ」

○「うう、ぼくももっと勉強しなきゃ。ところで、この字は漢字みたいな字だけど見たことないなあ……漢字なの？」

●「うーん、やっぱりしろとだな。これは、**隷書**という漢字の書体で、ふだんあまり使わないけど書道では使われることがあるんだ。福禄来成と書いてある。」

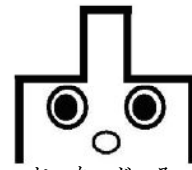
○「昔は使われていたの？」

●「2200年くらい前の中国の秦という国で、それまで使われていた書体を簡単に作られたもので、文書などに使われていた。よく知られている楷書は、もっと新しいんだ」

○「漢字にもいろいろな書体があるんだね。地元広島の人々の書を見せている新春書道作品展でいろいろ見てみよう」（玉置）

会期：平成18年1月3日（火）～2月5日（日）

会場：広島城天守閣第4層



おなじみ
しろとくん



昨年度の
展示作品

私のおすすめスポット

広島城の堀

広島城はもともと「内堀」・「中堀」・「外堀」の3重の堀で守られていましたが、江戸時代が終わると堀はだんだん埋め立てられていき、今は内堀だけが残されています。この内堀、昭和40年代に入ると、だんだん水が汚れてきて、堀の中の魚が死んでしまったり、ユスリカという虫が大量に発生したり、夏になるとヒドイにおいがしたりしました。そこで、平成元年（1989）年から堀の水をきれいにするための工事が行われ、平成5年（1993）に完成したのです。

この工事のおかげで水がきれいになった堀には鯉や亀などが住んでいますが、冬になると渡り鳥がやってくるようになりました。ホシハジロ・キンクロハジロという鴨の一種です。また、秋・冬は、川の下流や河口部などに群れ

て生活するカイツブリという小型の鳥の姿も見られます。これらの鳥がいるということは、水中には彼らの餌になるものもいるのでしょうね。最初は数が少なかったのですが、だんだん増えてきています。今年は何羽やってくるでしょう。今度広島城に来たら歴史の勉強もいいけど、堀で野鳥観察なんてどうかな？ そうそう、野鳥だけでなくウナギもいるらしいですよ！（本田）



堀のキンクロハジロ

しろや
！
広島城

編集・発行

財団法人広島市文化財団 広島城

730-0011

広島市中区基町21-1

電話：082-221-7512

FAX：082-221-7519

平成17年11月20日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～17：30（4月～9月）

9：00～16：30（10月～3月）

※平成17年11月中の土日祝日と12月3日（土）

・4日（日）は臨時延長で17：30に閉館です。

入館料：大人360円（280円）

小人180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日